



発行・編集 全日本青少年育成アドバイザー連合会

事務局 愛媛県宇和島市三間町是能 202-40 TEL 090-8692-9182

## 第20回全日本アド連総会研究集会

### 来賓に石破茂地方創生担当大臣出席



全日本青少年育成アドバイザー連合会（略：全日本アド連）は今年度で結成20年を迎えるという記念すべき年となり、6月17・18日国立オリンピック記念青少年総合センターで総会・研究集会を開催しました。全国から18県62名の青少年育成アドバイザーが参加しました。

来賓に石破大臣がお見えになることで冒頭に記念撮影があり、その後開会式を行いました。山本邦彦会長が病気で声が出ないということで伊藤順子副会長が挨拶を代読し「この会場で発足し、今回で20周年記念大会となる。全国から参集頂いただいた仲間や同志の皆様にお礼を申し上げ、共に喜び合いたいと思う。急激な社会の発展で青少年問題も複雑化しているが皆で英知を結集しがんばろう」と主催者挨拶がありました。

来賓に石破茂地方創生担当国務大臣、八村輝夫全国青少年育成県民会議連合会長、内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付青少年企画担当参事官補佐の園部重治氏でそれぞれ貴重なお話をいただきました（2面参照）。次に全日本アド連会長表彰で、今回20周年記念として、青少年育成アドバイザー認定1期～10期生で、現在ま

で活躍している方と長年にわたり地域の青少年健全育成に尽くしている模範的な31名の方々を表彰しました。その後、総会を開催し①27年度事業、一般会計・特別会計報告及び監査報告、②28年度事業計画及び予算案を提案し、報告・議案はすべて原案通り承認されました。

28年度運動重点方針は①「子どもの伸びるチャンスを活かす」運動の奨励・推進、②各都道府県・市町村民会議等の青少年育成運動に参画し、その活性化を図る、③組織の連帯を強化し、会員の拡大と活性化に務める。活動は①国民会議及び県民会議50周年を迎え、活動の見直し、②ありがとう100回運動の推進、③アド養成事業の継続開催等が主な内容となりました。

そして、具体的事業は基本問題検討専門委員会、後継者養成専門委員会、広報・財務専門委員会で推進していくこと（3・4面参照）とし、参加者はいずれかの委員会に所属し2日間で2時間程真剣に内容を協議しました。



石破茂大臣

山本会長の依頼と30年程青少年育成活動に関していた縁で出席した。青少年育成国民運動が始まって50年、アドバイザー連合会を創って20年、末次一郎先生が、青少年

は日本の希望である、日本で明日を担い、世界を背負うとおっしゃったその言葉どおり青少年の育成ということは大変大きな意味合いを持つものだ。

国会議事堂見学を見て良い子が増えたと思っているが、ネット社会は匿名性といった隠れた面でいじめがあり、どう理解するかよくわからない。自分の父親はあまりうるさいことを言わなかったが「人の役に立てとは言わないが、せめて人に迷惑はかけるな」と言っていた。このことから、少しでも世の中の役にたてないだろうかということ自分の胸に問いかけるような子ども達、それは自発的にできるのではなく親が、大人が創っていくものだと思っている。

以前にアフリカのセネガルに出張したとき、現地の女子高校生は自分の将来を国のために貢献する仕事をしたいと積極的に語っていたことが印象に残った。日本の子ども達に国のためにと言うつもりはないが、己を犠牲にして何ができるかという問いかけをしてもらえるように、大人たちが変わっていかねばならないのだと思う。

18歳の有権者には「自分が総理大臣だったらどうするかということを考えて1票入れてね」という国民主権を分かり易く説明している。最後に、日本の人口が、西暦2100年には日本人は5,200万人となりだんだん国力が落ちてしまう。どうやって崩壊をとめるか、私どもが青少年に残していかなければならない課題である。

青少年育成基本法は多くの党派のご理解を得て、なおかつ、本質を棄損しないようにできるかということを考えて、ご協力をいただく必要がある。全日本アド連の益々の発展を祈念する。

大人が変われば子どもも変わる。子どもは親の背中を見て育つものだという考え方が基にあるが、この50年世界や社会が大幅に変わったのに大人は変わっていないと思う。最近は家庭や地域が崩壊したと言ってよく、代わりにボランティア、NPOなどいろんな民間団体の事業で維持している感じた。スマホの過剰情報やいじめ等いろんな問題が起こっている。今までの運動でなく、新しい世の中で今どうやったら健全な子ども達を育ててい



八村輝夫会長

けるかということ改めて考えていかなければならない。大人が変わろうということが積極的な変化になっていかないといけない。

政府がいろいろな現象に対応しようと各省庁で対応しているが全般的に眺め

て、世の中をどうしようか考えることが、残念ながら今のところない。そこで青少年育成基本法という、将来日本を背負ってもらう大まかな精神規定が必要になる。

アドバイザー連合会の皆さんは県民会議と同根である。同じ株から生えた一本から出たアドバイザー連合会であり、もう一つが都道府県民会議であり、この県民会議連合会を何とか太くと思っているが十分でない。まだ皆様の地域で加入されていないところがあるので、加入するよう働き掛けて、全体で青少年育成運動やっていきたい。若い人たちに希望の持てる世の中にお互いにしたいと思っている。

28年度子供・若者白書の最後のページ、7青少年関連指導者一覧、表内(5)民間の有志指導者(ボランティア)に「青少年育成アドバイザー」を載せた。内閣府ホームページににもの希望があったが、現在内閣府に種々の問題がありHPへのアクセスも厳しい制限があるため載せることはできなかった。



園部重治  
参事官補佐

2014年に「子ども・若者育成支援推進法」の改正案として「青少年健全育成基本法案」が提出された。この案は自民党内では通っているが、公明党との調整はまだできていない状況だ。その内容は、現行の「子ども・若者育成支援推進大綱」である法律は、そのままに置きながら、理念や責務や大きな方向を示唆するような、その上の、上位理念法を制定しようとするものである。

子供・若者育成支援推進大綱は5年を経過し、また政権の交代もあり見直した。3本の大きな柱の一つは、前は基本的視点の再構築で子供・若者が大人と対等なパートナーとして、育成というより、その主体性自主性を尊重する、ということであったが、今回、時代の未来をになう若者が健全に成長し、持てる能力を活かして自立、活躍できるように家庭を中心として行政・学校・地域・企業等が連携して支援していくといった方向に変更した。また、子供の問題も子供の貧困・虐待・不登校と複雑に複合された問題になってきているため、それを踏まえた対応施策に変えている。



## 全日本アド連会長表彰



松田副会長(左)から表彰状を授与しました

### 20周年記念表彰を受けて 大村鍾造(愛知県)

永年にわたり継続してきた結果で光栄に思います。今後とも放課後の子ども教室では、縄とレク・スポーツ(リングテニス、バウンドバレーボール)を各小学校へ行って児童と共に楽しむ。児童館なわとび教室では、縄とび、卓球で児童と共に楽しんでいきたい。特にレク・スポーツでは、児童が簡単にできる種目を考えてやっていきたい。今考えている種目は、ハンドテニス。これは軟式テニスのボールを使用して、バトミントンのコートを使って片手でテニスをします。なかなか児童が出来る競技は難しいが、指導方法も含め考えていくことが楽しみである。

県名	氏名	記念特別表彰	京都府	田居 友一	第1期
北海道	磯見 秀喜	第8期	//	吉田 穂積	第1期
//	大津 路子	第10期	鳥取県	山本 邦彦	第1期
宮城県	服部 作吉	第1期	//	田中 貫一	第9期
//	菊地 千恵子	第2期	広島県	寄本 芳夫	第6期
//	門間 道浩	第2期	//	小佐古 登志江	第9期
//	太田 敏子	第2期	徳島県	松本 啓三	第8期
岩手県	平子 秀雄	第1期	愛媛県	小池 ミチ子	第2期
//	佐々木 勝則	第4期	//	上甲 絹美	第9期
茨城県	野尻 節子	第1期	高知県	森田 啓子	第9期
愛知県	大橋 円昭	第8期	通常表彰者		
//	大村 鍾造	第9期	宮城県	菅原 慶子	模範表彰
岐阜県	松原 登	第1期	東京都	小野 キヨ子	模範表彰
//	竹内 まふみ	第2期	愛知県	成瀬 眞佐子	模範表彰
//	伊藤 治	第3期	鳥取県	森岡 敏人	模範表彰
//	蒲 智美	第4期	特別表彰		
//	水谷 敬子	第9期	岐阜県	澤田 睦美	感謝状

# 委員会報告

## ☆基本問題検討専門委員会 委員長 石井 光郎（北海道）

- 1 全日本アド連として子どもの伸びるチャンスを活かす運動をどのように進めるか  
各県の組織と活動の状況と課題について報告しあった。共通の課題として県アドバイザー会組織の会員の高齢化、固定化を原因として、活動が渋滞している。活性化するためにどうすればよいかについて議論された。  
ありがとう100回運動、情報モラル啓発等の取組も重要と確認された。
- 2、市町村民会議、県民会議との連携  
県組織としては会員の個々の青少年と向き合う現場での活動をベースに他団体と連携し、情報の共有と、情報の発信が重要との議論がされた。
- 3、ブロック、各県の実態調査  
組織強化と運動推進のため会員数の把握、県民会議との連携など本年度調査し、まとめ報告する。
- 4、未加入組織の加入促進  
組織の弱体化や路線の相違で未加入県が4割あり粘り強く交渉していく。

## ☆後継者養成専門委員会 委員長 宇野 晃（愛知県）

4月15日の第1回認定員会で次の22名を青少年育成アドバイザー 第4期生として認定した。

北海道	土屋 公保、津田 美雪
宮城県	阿部 和子、千種 八重子、渡部 美智子
東京都	間宮 由美
愛知県	城 美智子、近藤 位知子、鈴木 俊宏、成田 直樹、小林 忠義、古山 勝人、村野 政章、落合 佑哉、関原 美智代、山本 百百代、船木 陽子、長谷川 幸子
岐阜県	小川 達大
鳥取県	西垣 康正、植嶋 しのぶ、松原 厚子

27年度アド養成講習会は35名の新人が受講した。北海道、宮城、愛媛、鳥取と今まで受講が無かった県から受講があり、北海道、宮城、鳥取、東海北陸ブロックが入門コースを実施した。市町職員やNPO法人の方々も多く受講があり、若手の参加も多く、レベルの高い講習会となった。

申請書類のあった22名を4月15日の認定委員会で認定（第4期生）した。まだ、13名の方々が認定されていないので、認定のためのフォローアップしていく。

28年度は新たな人材の発掘や仲間を広く増やすために、東京で開催する。

日程は平成29年2月17日～19日 場所は国立オリンピック記念青少年総合センターで行う。

参加費は2万円程度で行う。要望や意見は次のとおり。

- ①周知を出来るだけ早くしてほしい。都道府県担当課から市町村に配布する依頼をしてほしい。
- ②全日本コース締め切りは開催日の1か月前とする。
- ③全国の参加者と知り合うことは重要で交流会もプログラムに入れること。
- ④昨年と同じように講習会の内容を深めるために分野別グループワークを入れる。困難を抱える子ども・若者対応。ネット時代の子育てや情報モラル啓発。地域の健全育成活動のデザイン。
- ⑤入門コースの例が知りたいので昨年行った要項等を送ってほしいと要望があり（兵庫、茨城都等）、宮城県（1日）、東海北陸ブロック（1泊2日）を専門委員会参加者県に送ることとした。

☆広報・財務専門委員会報告 委員長 峠 テル子（愛知県）

広報活動を充実させるために、各県広報推進委員1人選出し情報を全日本アド連に報告する。「全日本アド連たより」を事務局で編集し会長の承認を得て発行する。

- (1) アドバイザーバッジの製作、ロゴマーク入り名刺を作る、のぼり旗（表文字の募集）をつくる、ありがとう運動の缶バッジ、シールを作成し各県から必要な数量を8月末までに募ることとする。



- (2) 全日本青少年育成アドバイザー連合会のNPO法人化の検討について

「認知度が低いと云われるアド連の運動（活動・事業）資金をどのように確保するか。」

その一つの方法がNPO法人化だ。特にNPO法人化について、「各ブロック・各県の積極的な意思を集約して、その是非を決定する。」ことについて、

- ① NPO法人の存在意義について
- ② NPO法人が評価を活用する目的と意義について
- ③ 法人格を持つということの意味
- ④ 懸念される問題等の検討をしました。来年度の総会までに各県で検討し集約し一定の方向を出すこととなった。

昨年4月22日突然倒れました。自宅に1人でいるときだったので自分で電話して救急車を呼んで直ぐ手術をして命拾いをしました。病名は大動脈解離。私はいくつかの偶然により軌跡的に助かりました。

手術を終えてからは、川崎市内のリハビリ専門病院に7月7日から行きました。

そこで体を使うこと、言葉を使うこと、頭を使うこと？などをしました。リハビリをやりながら私は考えました。これは、リハビリでやっていることは、実は教育の基本ではないだろうか……。リハビリの担当者は、青森出身の若い女性で、偶然にもジュニアリーダーズクラブをしていた人でかなりしっかりした人でした。

7年前、秋田の婦人会連合会総会で講演を行ったことがあります。聴衆千何百人というような広い場所でした。当時は100円の産直のブームでしたので、ワンコインリハビリができれば、若い人に担当してもらって活躍してもらうことも可能であるが、医師が必要などの規定があると、若い人には難しく、地位とお金のある人にしかやれないことになります。

NHKで（総合テレビ）「キッチンが走る」という番組があります。JAとやりあって家庭菜園をつくるのは難しいこと、おまけにJAのうしろには農薬を多量に使い、遺伝子組み替えをおこなうアメリカが控えているので厄介であります。

今後は新しいことを行う時には「対立」ではなく「併用」することです。以前は対立傾向が強かった日本が最近併用という雰囲気になりつつあります。

先に触れたリハビリをやっている青森の女の子などが地元で暮らせるようにする。それこそが青少年育成であるはず。彼女は地元の青森に仕事がないので、やむを得ず上京しているだけで、本当は親のいる地元で暮らしたい、地元になりたいのです。

高度経済成長期の頃は、地方の人は、地元で産業などがあまりないので、できるだけ上の学校に行き、できるだけ大きい会社に入る。そうやって安定することを目的としている人が多かったのです。その頃の若者は高等教育を受けて一流の会社に入り？時代の先端を走っていた。今の若者は、パイオニア（開拓者）です。先駆者となり、昔とは様相が変わってきています。しかし時代の先端を行っていることは共通しています。そういう若者を応援することが「青少年育成」であるのです。

入院していた頃、生涯学習についての本を出しました。「生涯学習論」というこの本は学校モデルではないのです。

その昔、中世のころ、街頭で絵を描く人、説教を語っていた人たちがいました。当時はこういう人たちが教育者でした。

山椒大夫の小説は、昔話を森鷗外という作家がリメイクしたものです。



2011年に東北に大地震があった。私が当時一番心配したことは放射能の被爆のことでした。しかし、現地ではそれどころではなく、もっと先にやることができました。「すぐ隣にある死」であり、死体がごろごろしている状態であり、そのための片付けが先でした。小説の羅生門の時代も「すぐ隣にある死」ということにおいては、同じような状態だったと思われま。

教育は学校だけでするものではない。教育が学校だけではない。

コーヒーの本にコミュニティカフェが乗っていました。ここは、地域社会のコーヒー店であり、人と人が接する場でもある。コミュニティカフェにおいては全国の交流会もあります。その交流会では色々な意見が出てくるのです。駄菓子を置いたら良いというアイデア、子供も来るようにしたら良い、というアイデアなど、沢山出てくるのです。

しかし子供が来ることについては、「うるさいから反対！」という人もいます。私は地域の老若男女、みんなが来るのがいいと思っています。

先の「生涯学習」についての本を出すと、次の本を出すことを考えるようになります。次は「子供、若者と地域社会」という本にすることを考えました。この内容はズバリ「青少年育成」です。私は各地で講演をしていますが、その講演の内容を入れることを考えています。加えて、各地で行われている新しい試みも入れようと考えているのです。

入院中から色々なことを考えていましたが、今新たに始めるであろう活動はミッションに近いが、うまくいかないだろうと思っています。その理由として、青少年育成では工場生産はできないからです。お互いにある程度の共感がないとやれないことだからなのです。お互いの共感なくしてやることはできないことです。

青少年育成は途絶えてしまっはいけない。まずは、若者自身が生まれ育った地元で生活できるようにすることが大切なのです。皆さんは「青少年育成」の時代の方々です。その時代の前は、地域が若者や子供を育てていました。地

域のお祭りなどの行事には、昔から必ず子供が参加するようになっていきました。京都の地蔵盆などは有名です。その後の時代になると、「青少年育成国民会議」が活動を停止してしまいました。



お祭り自体は青少年のためのものではないが、青少年育成になっているのです。青少年が参加する祭りや行事がないと言っていた地域でも、聞いてみると「子供神輿」があったりしました。「子供神輿」は立派な青少年育成のための方法でもあるのです。

現在もそうなのですが、地域の伝統行事がどんどん失われてきて、それによって青少年育成の機会も同じようにどんどん失われてきた時代がありました。丁度その時に「青少年育成国民会議」がスタートしたのです。当時の青少年育成は肩書などなくして、地域の人のごく自然に行っていたのです。今は青少年育成をする人たちは「アドバイザー」という名前をつけています。そういう名前の肩書を持った人が行っています。

「地域の子供は地域で育てる」という方針がありましたが、その方針を作ったのは地域ではなく中央でした。青少年育成が地域から盛り上がることを期待して創られたのです。地域の会長などが大会で集まると、そこで色々な意見が出てくるのです。しかし「では誰がやるのか？」という話になると、大抵は事務局がやることになるのです。わたしは、提案したら後は事務局任せにしないで、自分で、あるいは同志などを募って自分でやるべきであると考えます。そして、大げさなことではなく、すぐにできる小さなことから始めるべきです。

1990年代に「子供の居場所を作ろう」と盛んに言われるようになりました。こういう問題になると、すぐにお母さんを対象とした啓発資料を作ったりしがちですが、お母さん向けの啓発資料を作っても意味がないのです。その訳は忙しいお母さんは日々する事が多くて読む暇がない、読む人はこうしなければいけないと混乱するだけに終わってしまうからです。

青少年育成には2つの柱があります。1つは「非行対策」であり、もう1つは「団体育成」です。非行も昔と今では異なっており、昔は心の乱れは服装の乱れ、と言われる

ように判り安いのです。昔型の非行は今に比べるとまだかわいいという印象です。今の本当の非行は昔のように外には見えないので、服装などで見つけることは難しいのです。

団体育成については、今の若者が「タコツボ」に入っ出てこないように、多くの人や外部の人と接しないと言った現状があります。接しない理由は他の人と接して傷つけられないためということなのです。例として、昔はキャンプを主催すると面白そうだと参加する若者が多かったのです。ところが今では、そういう形で参加する若者は少ないのです。では、何をしているのかというと、1人でゲームをしているか、アウトドアはやっても家族だけでやる、という現状なのです。

私は県や市町村の活動報告を集めて、アイデア考え、次に講演を行う時の資料として使うのです。

次の活動を展望するのが「居場所づくり」であり、始めからその場所でいうテーマは決められないでしょう。「自由に集まって下さい。そこで何かやりましょう。」というスタンスになります。店づくりのアイデアもありました。小さいブースにトライアルとして店を出して見る試みです。若者が昼は自分で出した店を運営し、夜は彼らのために準備した経営や経理などの講座に参加するシステムになっている店です。そこの小さい店で試してみて、うまくいきそうだったら地元に戻って自分の店を出す。そういう経緯で、若者が地元の商店街に居酒屋を出した例がありました。結果的に地元の活性化につながって、これも青少年育成の例です。

青少年育成アドバイザーは全国組織ですね、何が必要かって言ったら、最低限は情報交換が必要です。国民会議が果たした役割は大きいです。情報交換には事例の紹介も、活躍している人同士の意見交換もあります。昔は紙媒体が必要不可欠でしたが、私は青少年育成の雑誌連載を辞めた後、自分でブログ“青少年育成 NDT”というのを始めました。そこで後最近の動向について紹介したんですね子ども食堂とか、駄菓子屋もない町で育った子どもを紹介しました。そういうブログを作って紹介するのは割と簡単にできる気がします。それが必要だというふうにも思います。

最後に、歴史を途切れさせない。日々の生活が子どもや若者を育てている。そこから青少年育成の時代が展開し、今青少年育成の次の時代を迎えようとしています。そこで、過去を途絶えさせないと言うのは、過去にいろんな歴史があるんですよ、それを清算しないで、続けていく必要がある。それを申し上げたかった。

私ももう力は十分ありませんけれども、役にたてばと今日はお話をさせていただきました。

# 愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会活動事例発表会

仲間の活動の思いや実践を学び、今後の活動の活力を得る機会として5月8日の総会後に行いました。

限られた時間で、県アド連会長表彰者3名、既アド1名、新人4名の方が熱弁をふるいました。(通信員：宇野晃)

 <p><b>会長表彰者 神藤 祐子さん</b></p> <p>アドバイザーとしての活動の場を模索した。現在キャリアコンサルタント2級技能士の資格を活かし、母子生活支援施設で就労支援を行っている。幼、小、中のいろんな体験は重要で人生に良い影響を与える。キャリア教育は①自分を知る②社会を知る③さまざまな体験をすることである。DVや虐待で助けを求めているら知らせてほしい。</p>	 <p><b>会長表彰者 後藤 冷子さん</b></p> <p>豊田市の母子保健推進員(母推さん)の会長として、乳児をもつ家庭に[おめでとう訪問]などを行っている。内外から注目され、励みになっている。豊田市のアドは市青少年健全育成推進協議会で活躍し、「親ノート」の活用した家庭への啓発も進めている。市の協力もあり、活動の場があり継続は力となっている。</p>	 <p><b>会長表彰者 水谷 和孝さん</b></p> <p>萩原元昭先生に出会い、何かしてあげるのではなく、子ども・若者と一緒に創る参画という考えに影響を受け、ニュースポーツを通じ活動している。これはチャンピオンシップスポーツでなく明るく笑顔で面白く、コミュニケーションがとれるスポーツの創造を目指している。まだ若いのでニュースポーツで健全育成に貢献したい。</p>
 <p><b>アド会報告 光岡 正和さん</b></p> <p>県アド連事務局次長、豊田市アド会副会長として両者の調整で頑張りたい。3月末に役所を退職し家業を継いでいる。今、地元「アステ」というボランティア施設を中心に活動をしている。つい最近、内モンゴル自治区で植林をしてきて、現地の子どもの逞しさを知った。また「アステ」で外国の母子に日本語を教えている。</p>	 <p><b>新人アド 船木 陽子さん</b></p> <p>自分の将来のことを真剣に考え起業した。キャリア事業部をつくり、産業カウンセラーやキャリアコンサルタントの資格を活かし、大学や専門学校等でキャリア教育や就職相談などを行っている。学生に甘いことは言わない。ビジネスマナーの向上、人としての資質の向上など現実の厳しいことを伝えている。</p>	 <p><b>新人アド 村野 政章さん</b></p> <p>故郷の五島列島に帰ろうとした時、環境と人のあり方を考える「アーススマザー」の主宰者に会い、共鳴した。豊田市で社会生活に困難を抱える子供・若者対象に農業体験で自立支援を行っている。すべての人はつながりと場所があると思っている。豊田市で生活困窮者就労訓練準備事業の指定を受け5月から活動している。</p>
 <p><b>新人アド 関原 美智代さん</b></p> <p>小学校高学年から不登校になった若者を見て子育ての大切さを知った。人生には①仕事②交友③愛の課題があり、克服するには勇気がいる。親が余計に口だしや干渉をして子どもの自己肯定感を損ねると、不登校や引きこもりになったりすることがある。子育ては楽しいものだと感じるよう母熟を主宰している。</p>	 <p><b>新人アド 小林 忠義さん</b></p> <p>地元自治区から推薦され豊田市青少年健全育成推進協議会理事2年やった。知らないことが多く、アド養成講習会を受講して学ぼうと思った。仕事の経験で、LINEで子どもが家出したことを学校は知っていたが、教育委員会には報告が無かった。何かおかしいと感じ、研究課題としたい。</p>	 <p><b>県担当課長代理コメント 水谷 景子さん</b></p> <p>お話を聞いて、それぞれの熱意が伝わって勉強になった。耳に残ったことは①きっかけ②出会い③つながり縁が大切と感じた。行政の出来ることは限定される。県民や団体の方々に支えられてできると感じている。子ども・若者育成支援協議会の普及、体験体感スマホ教室開催など協力を願いたい。</p>

# カーニバルで情報モラル啓発紙芝居！

愛知県アド連理事・尾張部会長 若林 眞由美

5月14日、日曜日。毎年開催される春日井市の大きなイベント「わいわいカーニバル」が行われました。さまざまな遊びや体験を通じて、子どもが持つ自由で伸びやかな創造力を引き出す子どもの祭典とあって、市内の落合公園には多くの市民団体や企業等が参加協力していました。愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会尾張部会も昨年度に引き続き「情報モラル普及啓発活動」として、正しいインターネットの使い方の紙芝居やメディアキッズ検定を活用し、多くの人に関心や理解を広めるブースを出展しました。



今回は青少年育成アドバイザー養成講習会の講師の下田太一先生、萩原元昭先生。中部大学の先生と学生、名古屋学芸大学の先生と学生等たくさんの方が関わってくれました。特に中部大学の学生達は、ネットリスク等の危険性を伝える紙芝居を学生の目線で考案し作成してきました。いろいろな声や読み方に工夫を凝らし、集まった子ども達を引きつけ、回数を重ねる程表現豊かな紙芝居となりました。

また、スマホを模ったマスコットも持参し、呼び込みの大きな役割を果たしていました。検定ブースは年齢に応じたネットリスクの説明やネットの使い方について理解を促し質問に回答していました。

青少年育成アドバイザーが学生達とコラボし、お互いに学び刺激し合い、やりがいを感じる事が成果となりました。先生方や青少年育成アドバイザーは学生達にネット等危険性や説明の仕方、目的をしっかり伝え、紙芝居の手法や呼び込みのコツを指導するなど、それぞれの役割のつなぎ役として活動しました。

## 近畿地区青少年育成アドバイザー研究集会

滋賀県の県民交流センターで7月24日に内閣府主催「28年度子供若者育成支援のための地域連携事業近畿ブロック研修会」と兼ねて開催しました。

18名のアドバイザーの方々が参加し松田近畿地区会長や山本全日本アド連会長の挨拶の後、吉田京都府アド協会長の司会で各県の活動の現状と今後のあり方や、全日本アド連の後継者養成事業など活発に意見交換を行いました。



### ● 今後の行事予定

☆第3回理事会

日時 平成28年11月29・30日 15:00～翌日12:30まで

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟105号会議室

☆28年度青少年育成アドバイザー養成講習会

日時 平成29年2月17～19日 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

### 【編集後記】

平成28年度内閣府編集の「子供、若者白書」の参考資料7の青少年関係指導者一覧(5)の民間指導の有志指導者(ボランティア)欄に「青少年育成アドバイザー」が載りました。職務は、「一定の講習を修了し、(旧)青少年育成国民会議等に認定された者。青少年の地域活動を支援し、青少年を取り巻く社会環境の浄化を図るため、青少年育成県民会議や市町村会議に協力し、地域や団体で育成活動の推進にあたる」とあります。

このことから、私たちは自信と誇りをもって運動をすすめていくことが求められます。

この1年親しみ愛される編集を目指して頑張りますので情報の提供をよろしくお願いいたします。(編集担当)